

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和 6年 1月 15日

協議会名：今金町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

補助対象事業者等	事業概要	前回（又は類似事業）の 事業評価結果の反映状況	事業実施の適切性	目標・効果達成状況	事業の今後の改善点 （特記事項を含む）
有限会社 東ハイヤー	予約バス「ルンるん号」 八束・白石地区 金原・豊田地区 田代・稲穂地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報紙面やチラシの配布等を行い、利用促進を図った。</li> <li>・市街地エリアでの乗車を継続して実施した。</li> </ul>	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 八束・白石地区、金原・豊田地区の2路線は昨年度と比較して利用者が増加したが、田代・稲穂地区については利用者が大幅に減少した。 全体で見ると、昨年度より利用者増となったが目標を下回った。 要因としては、日常的に乗車していた利用者の対象地区外への転居や人口減少によるものと考えられる。 目標：3,750人 実績：3,436人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者への聞き取り等によりニーズを適切に把握し、ダイヤ設定の見直し（例：行き便と帰り便の混合・時刻や便数の変更など）を検討する。</li> <li>・広報紙面やチラシの配布及び町HPへの掲載並びに町内公共施設への掲示など、継続した情報発信を行い、利用促進を図る。</li> </ul>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 6年 1月 15日

協議会名：	今金町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>今金町は北海道渡島半島の北部に位置し、南はユーラップ山系を挟んで八雲町と、北は狩場山系を介して島牧村と、東は低い山地を経て長万部町と、西はせたな町と接しており、四方が山岳丘陵に囲まれた内陸地である。面積は 568.25km<sup>2</sup>、人口は 4,646人（令和 5年 10月末現在住民基本台帳）。</p> <p>人口のうち約 2割が75歳以上の高齢者で、その割合はさらに増加することが予想されており、現在の自家用車中心の地域交通のままでは今後日常生活において不便が生じる世帯が増加することが懸念される。</p> <p>このため、町内の交通不便地域の解消を図ることを目的として、地域間幹線系統（函館バス瀬棚線）に接続する地域内フィーダー系統のデマンドバスを運行し、患者輸送バスやスクールバスの運行も併せて見直しながら、地域の生活交通ネットワークの構築を進めているところである。</p>

# 今金町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

## 事業 施の目的・必要性

今金町は人口の約 2割が 75歳以上の高齢者であり、その割合は更に増加することが予想されるため、現在の自家用車中心の地域交通のままでは今後日常生活において不便が生じる世帯が増加することが懸念される。

このため、町内の交通不便地域の解消を図ることを目的として、地域間幹線系統（函館バス瀬棚線）に接続する地域内フィーダー系統のデマンドバスを運行し、地域の生活交通ネットワークの構築を進めるところである。

## 生活交通確保維持改善計画の目標

前年度と比較し、利用者数が減少したことから、前年度申請と同等以上の利用実績を目標とする。

予約バス「レンるん号」全体の利用者数 3,750人

## 令和 5 年度事業概要

予約バス「レンるん号」【八束・白石地区】【金原・豊田地区】【日進地区（補助対象外）】【田代・稲穂地区（補助対象外）】

運行形態：デマンド型フィーダー路線

運行事業者：有限会社東ハイヤー

運行日：平日、土曜日（日曜日・祝日は運休）

運賃：1回（片道）200円

## 地域公共交通の現況

- ・函館バス株式会社（町内 路線）  
～国鉄廃止に伴う代替幹線バス路線
- ・スクールバス

## 協議会開催状況

令和 5 年 6 月 9 日 令和 5 年度第 1 回協議会を開催（書面会議）

・収支決算及び収支予算案の承認、本計画の承認

令和 5 年 10 月 4 日 令和 5 年度第 2 回協議会を開催

・役員を選出、実証運行について

令和 6 年 1 月 15 日 令和 5 年度第 3 回協議会を開催（書面会議）

・実証運行開始の報告、事業評価の承認、本計画の変更について

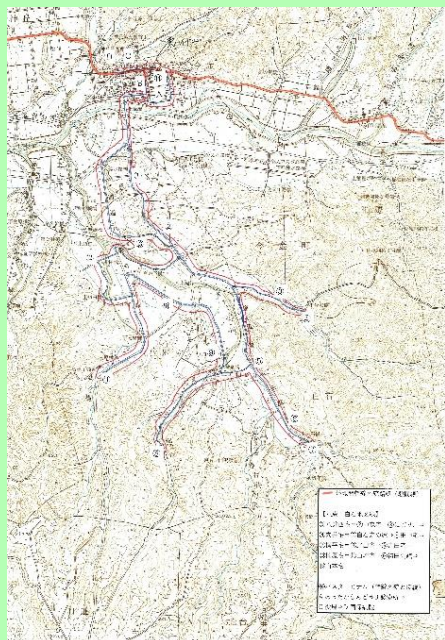
## 令和5年度事業の実施状況

### 1) プロセス、創意工夫

- ・フィーダー路線のエリア選択は、平成25年度実施の今金町地域交通サービス導入調査及び地理的事情に勘案し決定。
- ・前年度に実証調査運行を行い、最終的なダイヤを決定。
- ・地域住民説明会の開催、町広報紙による周知、運行地区全世帯への時刻表の配布、患者輸送バスに同乗し制度切り替えの説明等により、住民周知を行った。
- ・平成30年4月より、複数名又は団体による一括予約やファックスでの予約を可能とし、より利用しやすい受付体制を整えた。
- ・令和元年7月より、これまで下車のみであった市街地エリアでも乗車を可能とし、継続して運行を実施した。

### 2) 運行系統

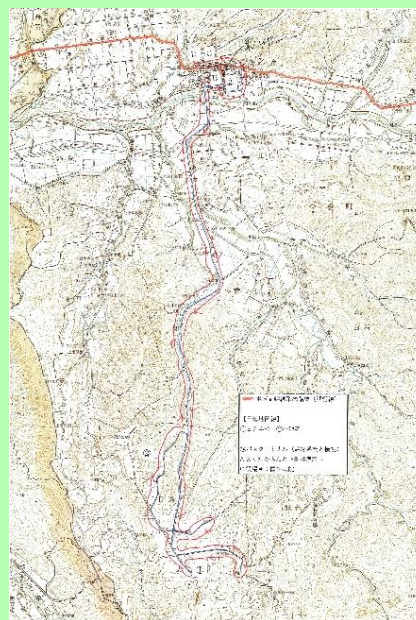
八束・白石地区



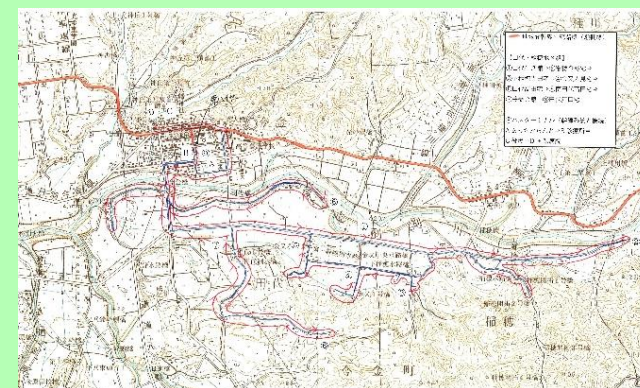
金原・豊田地区



日進地区

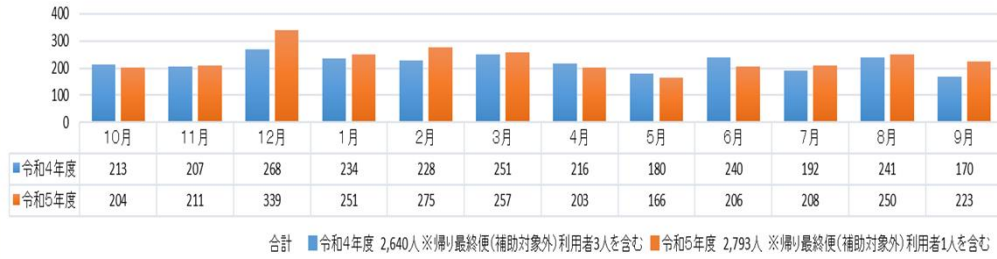


田代・稲穂地区

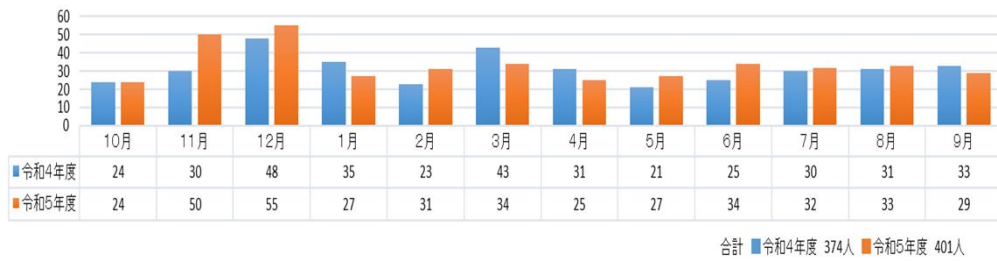


### 3) 利用 績

八束・白石地区



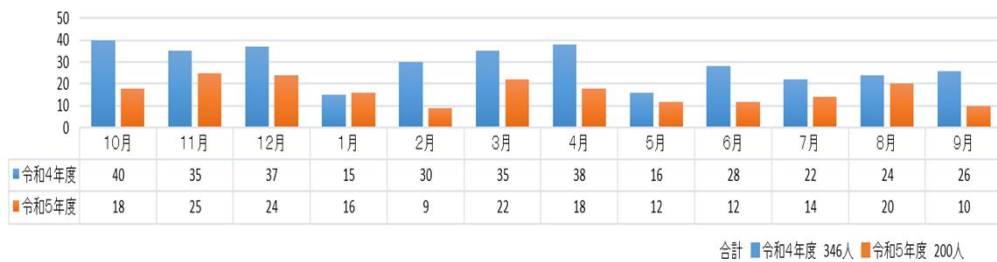
金原・豊田地区



日進地区(補助対象外)

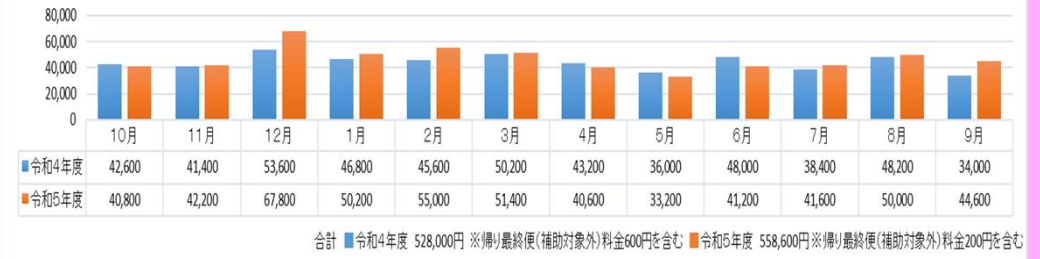


田代・稲穂地区(補助対象外)

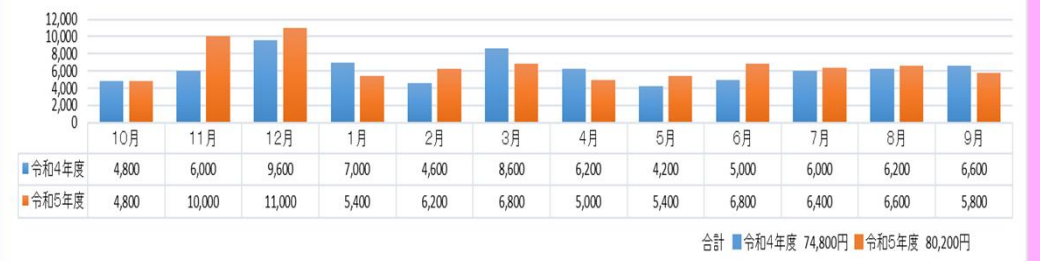


### 4) 収 入 績

八束・白石地区



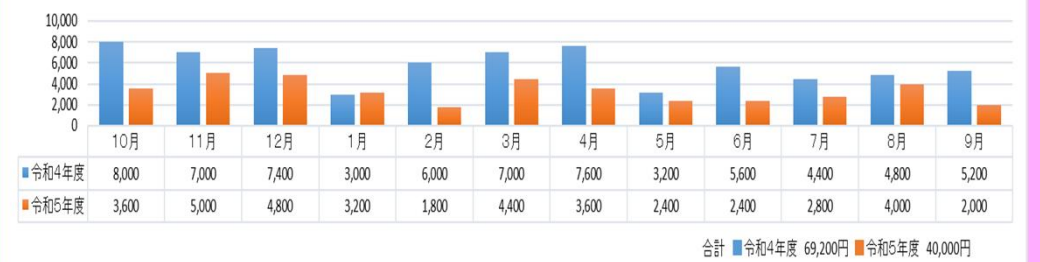
金原・豊田地区



日進地区(補助対象外)



田代・稲穂地区(補助対象外)



## 5)事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施された。

## 6)目標 効果達成状況

八束・白石地区、金原・豊田地区、日進地区の3路線は昨年度と比較して利用者が増加したが、田代・稲穂地区については利用者が大幅に減少した。

全体で見ると、昨年度より利用者増となったが目標を下回った。要因としては、日常的に乗車していた利用者の対象地区外への転居や人口減少によるものと考えられる。

目標 : 3,750人 / 年

実績 : 3,436人 / 年 (91.0%)

## 7)事業の今後の改善点

・利用者への聞き取り等によりニーズを適切に把握し、ダイヤ設定の見直し(例:行き便と帰り便の混合、時刻や便数の変更など)を検討する。

・広報紙面やチラシの配布及び町HPへの掲載並びに町内公共施設への掲示など、継続した情報発信を行い、利用促進を図る。

## 8)地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

運輸局記載欄